

未来につなぐ ふくい魅える化プロジェクト make.f

INTERWEAVE 成果発表会 REPORT

地域企業と外部人材が新事業創出を起点に関係を育む

2022年2月19日、県内外の人材と福井のパートナー企業が新事業創出を目指す福井市主宰のプログラム「INTERWEAVE(インターウィーブ)」の成果発表会が、福井新聞社・風の森ホールで開催されました。

このプログラムでは、20～40代の俳優、税理士、学生など多様なメンバーがパートナー企業である「かみみや」(福井市)、「いのうえ」(永平寺町)とチームを組み、新事業を90日間にわたり練り上げてきました。

発表では関係人口の創出や新たなプロジェクトを継続的に生み出す産官学連携のプラットフォームづくりなどさまざまな構想が提案され、企業価値の向上にとどまらない地域全体の新たな可能性を感じる場となりました。



PROJECT かみみやプラットフォーム

MEMBER (左から)

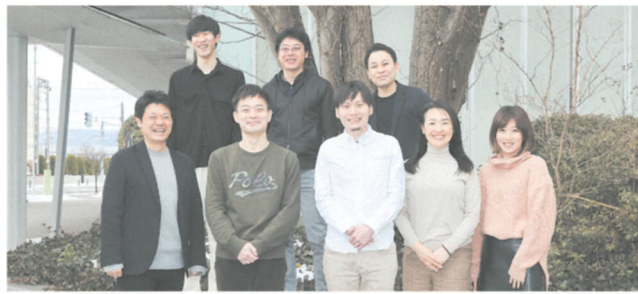
山田孝雄さん／木瀬将盛さん／田島紡蘭さん
黒田悠生さん／大橋裕介さん／田川裕大さん

「かみみやチーム」は福井県内のあらゆる土産物を扱う株式会社かみみやをパートナー企業に、福井出身者や首都圏在住者など5名のメンバーで構成。はじめに店舗でフィールドワークを行い、福井の土産物事情の把握と課題の整理からスタートしました。かみみや社長の木瀬さんへのインタビューを通して浮かび上がってきたのは、若者層の顧客の獲得やデジタルマーケティングの必要性、既存のビジネスモデルからの転換といった複数の課題。「商品を通じて福井の魅力を伝えること」をテーマに、メンバーそれぞれの知見を活かしたアイデアを90日間で試行錯誤しました。まずはデジタルマーケティングの実施。かみみやと言えば「ありがとうございます、かみみやでございます」でおなじみのテレビCMが有名ですが、若者層の顧客を獲得するために、今回SNSや動画を使った発信に挑戦しました。福井で活躍しているYoutuberやよしもと住みます芸人とのタイアップで「1万円分かみみやで買い物をする」「ごはんに合うおかずをランキングで紹介」「地元酒造メーカーとのタイアップ」などさまざまな企画の動画を制作。社長自ら動画撮影にも挑戦し公開したところ、視聴者からの評判も上々でした。

さらに、販路拡大を狙った新たな販売方法も模索。コミュニケーションアプリを利用したギフトサービスの利用や駄菓子屋を



イメージした自分だけのかわいいお土産を作る「かみみやビュッフェ」、福井の特産品を詰め合わせた「宴会セット」、複雑な入力がなく二次元コードの読み取りだけでプレゼントを贈れる仕組み「かみみやエクスプレス」などユニークなアイデアが発表されました。今後はこれらの取り組みをかたちにしながら、福井の魅力を映す「かみみやプラットフォーム」の実現を目指します。



PROJECT INOUE STUDIO

MEMBER (左から)

田川裕大さん／倉増京平さん／石川貴志さん
大橋裕介さん／山田孝雄さん／井上才蔵さん／塚崎純代さん／伊藤紗恵さん

1929年の創業以来、大本山永平寺の門前町で多くの参拝客に親しまれている土産物屋「井の上」。4代目の井上才蔵さんによって、近年「永平寺だるまぶりん」をはじめとしたオリジナル商品を多数生み出しています。さらなる新商品の開発や門前町の活性化、福井ブランドの発信など、自社だけでなく福井全体を視野に今後を思い描く井上さん。そんな思いを実現させるために、税理士やスタートアップ、ITなどさまざまな分野に携わる首都圏在住のメンバーたちが集い、「INOUE STUDIO」と題した3つの

活動を発表しました。

1つ目が社内体制の整備。毎週メンバーたちがオンラインでミーティングを重ねるなかで、まずは井上さんが商品開発に注力できる環境づくりから整えていきました。適材適所でスタッフに任せる体制をつくるため、業務内容の整理や適任者のピックアップ、マネジメント教育などを実践。今まで以上にスタッフと丁寧なコミュニケーションを取りながら組織の足元固めをはかりました。

2つ目が、全国の商品開発者によるコミュニティづくり。地域で活躍する商品開発担当者たちがオンラインでつながることで、地域間の情報交換はもちろんのこと、新しい価値観の形成や自身の経験を共有することで、さまざまな学びを得られる場を目指していきます。

3つ目が地域貢献に興味のある首都圏の学生を対象にしたインターンプログラムの策定。企業にとっては人手不足の解消となり、学生たちにとってもアイデアの実践の場となるWin-Winの関係性を目指す仕組みを考えました。

地元企業が潜在的に抱えている課題を外の人たちによって見える化をした「INOUE STUDIO」。地域を超えて多くの人たちが関わることで、福井発信の地域活性化を多角的に展開していきます。



INTERWEAVEとは？

福井を中心に活動する地元パートナー企業と全国から公募する多様な専門性やキャリアを持つメンバーがチームを結成し、ともに未来を見つめる視点をもちながら、地域や企業の資源と互いの学びを掛け合わせて、新事業創出に取り組むプログラムです。さまざまな状況が加速的に変化し、地域や企業にとって模索と試行をつける今、可能性を広く描き、多様な人々のそれぞれの考えを混ぜ合わせることで、「ともに織りなす未来」を考え実践する場を福井に開きます。

INTERWEAVEパートナー企業の声

株式会社かみみや
代表取締役社長

木瀬将盛さん

今回、これまで必要だと感じながらも着手できていなかったデジタルマーケティングの部分で、さまざまなアイデアをいただきました。私自身、特に苦手意識を感じていたのが「発信」。何から始めていいかわからない状態でしたが、メンバーの方々の幅広い知見により、県内の住みます芸人やYoutuberとのコラボレーションも実現し、「まずやってみる・始めてみる」ことの大切さを強く感じました。INTERWEAVEは業界業種問わず、新しい発見を求めている人にぜひ参加してほしいですね。次回は私もパートナー企業という立場でなく、メンバーとしてこれまで培ってきた小売りや流通の経験をお役に立てることができればと思っています。

株式会社いのうえ
専務取締役

井上才蔵さん

4年前に家業に入ってから、自社の商品開発を通じて永平寺門前町の活性化や福井を代表するブランドを作りたいという思いを持ち続けてきました。しかし、日々の業務に追われていると、地域のことまで考える余裕がないのが正直なところ。現状を開拓するためにも、今回パートナー企業として参加しました。さまざまなバックグラウンドを持つメンバーのみなさんが、自分ごとのように弊社の課題と向き合ってくださる姿に心を打たれ、私自身パートナー企業というよりも、いちメンバーとしてともに学ぶことができた90日間でした。今後このつながりを大切にしながら、少しずつ前に進んでいる姿をみなさんに見せられるよう頑張っていきたいと思っています。

組織や所属を横断した共創プラットフォーム 関係人口を育みながら、ともに成長できる連帯づくりへ

3つ目のプロジェクトとしてINTERWEAVEの運営メンバーも発表。90日間を通して見えた「新たなプロジェクトを継続的に生み出すプラットフォームの必要性」について両チームと運営に横断的に関わった「プロジェクト横断チーム」が提案しました。

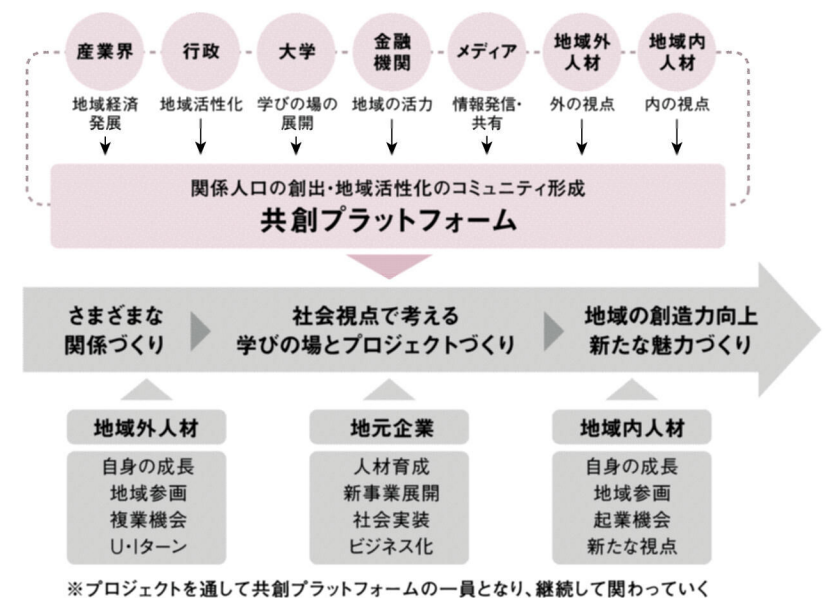
プロジェクトが継続的に生まれていくためには、多様な人たちが集うコミュニティが欠かせないと考察。特に近年、首都圏を中心に「複業」が浸透しつつありますが、必ずしもお金のためだけではなく、個人の「やりたい」という気持ちが起点となって活動し

ている人が増えているそうです。産(産業界)官(行政)学(大学)金(金融機関)言(メディア)が連携し、ある程度の経済性は担保しながらも、お金だけではない「非金銭的な価値」をデザインすることが大切と強調し、人生100年時代の到来で働き方に対する価値観が変化するなか、さまざまな形で多様な人材の出番と居場所を作ることの重要性を語りました。

また、今やオンラインで各地がつながるようになり、都市部にいながら地域の仕事に携わることも珍

しくはありません。地域とのコミュニケーションが非日常から日常に変わりつつあるなかで、都市部と地域、組織の内と外の人材が互いに新しい結びつきを深めることが、地域への関わりしるを増やすことにつながります。

住む場所や組織を横断しながら多くの人が有機的な関係性を育むことで、地域を活性化する新たなプロジェクトが継続的に生まれ、地域の創造力向上と新たな魅力づくりにつながるプラットフォームを構想しました。



INTERWEAVE 成果発表会に参加して

福井県観光連盟
観光地域づくりマネージャー
佐竹正範さん

地元企業の支援を地域の人だけではなく、外の人たちが関わっていく仕組みが素晴らしいと感じました。今回のパートナー企業はお土産や永平寺門前町など、観光との親和性が高く、企業の活動が活発になることで地域の魅力も高まると期待しています。プラットフォームづくりはぜひ私も関わりたいですね。

SCSKニアショアシステムズ
事業企画課
笠松理衣さん

地元に貢献したいという思いは持ちつつも、ビジネスとしてかたちにするのは難しいもの。さまざまな地域から人が集い非金銭的な部分に重きを置いた活動は、特に福井のような地方で大変意義があると感じました。多種多様な人たちの発表を聞き、今日一日参加しただけでも大きな刺激を受けました。

福井県立大学
地域経済研究所
杉山友城さん

提案して終わりではなく、今後も継続していく熱意と期待を感じられる成果報告会でした。一つの課題に向き合いながら大人の本気度や責任感を理屈ではなく肌で感じることができた体験は財産だと思います。大学教育においても、学生たちをこのような学ぶ機会に積極的に巻き込んでいけたらと感じました。

南越前町「Daisan」運営
宇野朱美さん

外部のメンバーによって、パートナー企業の表面的な課題だけではなく、根本的な問題も解きほぐしていくプロセスがとてもいいなと思いました。私は今南越前町に住みながら町外の人たちに滞在してもらい取り組みを行っています。来る人も地域の人にも刺激になるような状況を生み出したいと感じました。

福井銀行
営業支援グループマネージャー
山岸重和さん

発表会の質疑応答では、メンバーのみなさんが地元福井への恩返しへの気持ちや社会とのつながりなど、非金銭的な部分でさまざまなモチベーションを持っていることに驚き、感動しました。銀行としてもさまざまなキャリアを持つ方の知見をいただきながら、ぜひ一緒に関わっていけたらと感じました。

INTERWEAVEメンバー
俳優
田島紡蘭さん

普段東京に住んでいても、映画やドラマの撮影は地方で行うことも多いです。コロナ禍になり、移住を考えていた時にこのプロジェクトに参加し、二拠点居住や関係人口など地方とさまざまな関わり方ができることを知りました。今後は地方の農家を手伝いながら俳優をやるような暮らしを実現したいですね。

福井青年会議所
2022年度理事長
方橋孝貴さん

誰もが地域を良くしたい思いはありますが、まちづくりなどのプロジェクトは収益性が担保されなければ長続きしません。その点、今回の発表では地元企業に根付く事業のヒントがふられており、企業が事業を持続させることで関係人口の広がりにつながることに期待が持てる内容でした。今後の成果に期待します!

発表会当日の様子をYouTubeでも
見るができます。ぜひご覧ください。



未来につなぐふくい魅える化プロジェクトは、地域を超えた“新たな人の流れの創出”から“多様な関係人口の土壌を育む”ことを目指し、地元企業と外部人材による事業づくりや、これらのくらしごと、まちのあり方を様々な立場の方とともに考えるプログラムを実践しています。
事業名：福井とつながる対流拡大事業 主宰：福井市 協力：国立大学法人 福井大学産官連携本部、公立大学法人 福井県立大学 地域連携本部、株式会社福井銀行、株式会社福井新聞社 企画運営：株式会社福井新聞社、株式会社デザインスタジオ・ピニン

<https://makef.jp/>